

# 未来は過去から・・・



〈執筆者〉

東灘消防団 本山西分団

団員 松田 義仁

「集合!」「分団長にかしら〜なか!」

精悍な号令が心地よく響き、団員の気持ちを引き締めます。

神戸市東灘区は、北に六甲山を仰ぎ、少し下ると、銘酒で有名な灘五郷の酒蔵が建ち並ぶ、まさに歴史と文化が人の暮らしに上手く融合した、とても趣のある町です。この地で、私たち東灘消防団本山西分団は、地域住民の皆さまがより安心して暮らせる町づくりを目指し、日々活動しています。

毎年秋には社会見学として、地域の小学4年生を対象に、防災の重要

性、そして何よりも、尊い人命をいかに守るかというとても肝要な内容を理解してもらうために、手作りパネルなどを用い、工夫してお話しています。小学生の皆さんは、私たちの話に大変興味を示し、とても真剣な面持ちで聞いてくれています。

また、中学生の方には、市民救命士講習として、救命処置法や命の危機に直面したときの対処法などの実践的な講習を行っています。より迅速で的確な応急処置が、いかに重要であるか、また、1秒でも早く正しい応急処置をすることが、傷病者の救命率を向上させるためにどれだけ大切なことかをしっかりと理解してもらい、心肺蘇生法やAEDを用いた一次救命処置の方法について、指導を進めています。

思えば、彼らはあの未曾有の事態、阪神・淡路大震災を知らずに

育った世代です。救護や救命といわれても、現実味のない話かもしれませんが、「大きくなったら入団したいです!」と言ってくれる子どもたちもたくさんいます。そんなとき、私たちは心からうれしく思うとともに、子どもたちのことを頼もしく感じています。

私たちの先人がそうであったように、大切な人命と愛する郷土の安全を守り、子どもたちが明るく過ごせる未来へとつないでいくことこそが、今の私たちの責務と信じています。



各自、仕事をしながらの活動で、大変なこともあります。これから消防団の一員としての自覚を持ち、邁進していきたいと思えます。